

● 総 説 ●

[シリーズ: 移植医療と組織適合性] 第 4 回 GVHD 制御と移植免疫寛容誘導の展望

豊嶋 崇徳

九州大学病院 遺伝子・細胞療法部

要約: 同種造血幹細胞移植後では、免疫系がドナー由来で置換されるにもかかわらず、移植後に免疫抑制を中止できる症例がまれではなく、このような例では免疫寛容が成立していると考えられる。寛容が成立しない症例では慢性 GVHD が発症する。この慢性 GVHD は、急性 GVHD による中枢性・末梢性寛容機構の破綻に関連して発症するのではないかと考えられるようになってきた。すなわち、移植免疫寛容は、ドナー由来の免疫系がレシピエントの体内で再構築される過程で、中枢性・末梢性寛容機構が正常に再構築することで達成されるものと考えられる。

キーワード: Graft-versus-host disease, Hematopoietic stem cell transplantation, Graft-versus-leukemia, Immune reconstitution, Tolerance